

平成19年7月9日

平成18年社会生活基本調査 生活行動に関する結果 要約

1 インターネットの利用

- 「インターネットの利用」の行動者数は6750万人、行動者率は59.4%
- 男性の62.5%、女性の56.5%がインターネットを利用

図1-1 年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率（平成13年、18年）

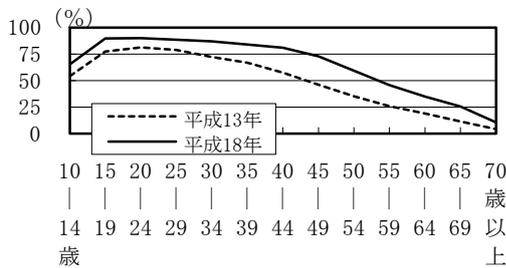
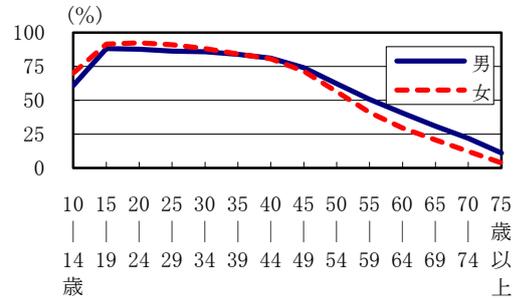


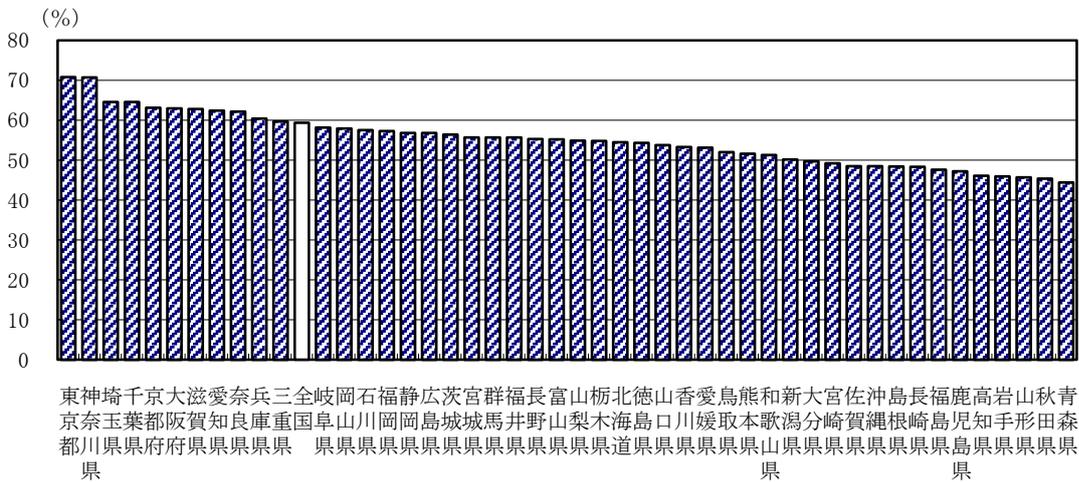
図1-2 男女、年齢階級別「インターネットの利用」の行動者率



注:平成13年は仕事や学業での利用を含む。

- 東京都及び神奈川県は70%を超える行動者率

図1-3 都道府県別「インターネットの利用」の行動者率



東神埼千京大滋愛奈兵三全岐岡石福静広茨宮群福長富山栃北徳山香愛鳥熊和新大宮佐沖島長福鹿高岩山秋青
京奈玉葉都阪賀知良庫重国阜山川岡岡島城城馬井野山梨木海島口川媛取本歌潟分崎賀繩根崎島児知手形田森
都川県県府府県県県県 県県県県県県県県県県県県県県道県県県県県県山県県県県県県島県県県県
県 県 県

●社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。今回公表する結果は、自由時間等における主な活動に関する結果であり、集計対象は約18万人である。なお、生活時間の配分に関する結果は、平成19年9月及び12月に公表する予定である。

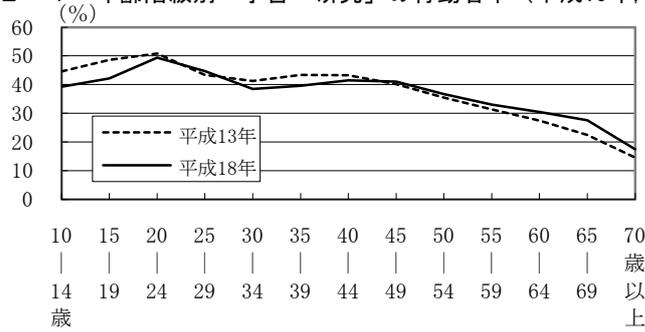
●用語

行動者数…過去1年間に該当する種類の活動を行った人(10歳以上)の数

2 学習・研究

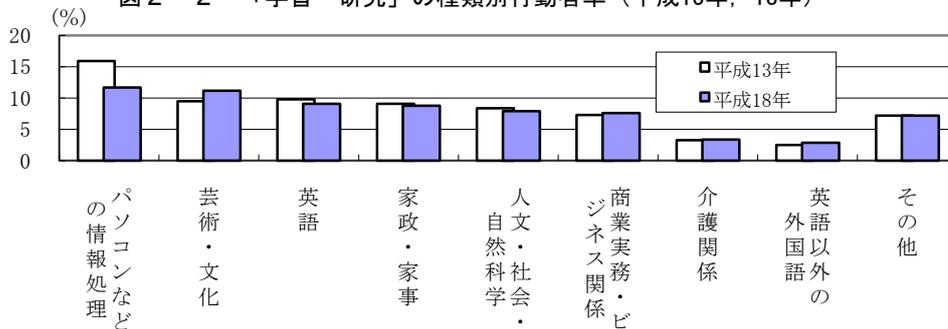
○ 「学習・研究」（仕事や学業は除く）の行動者数は3998万人、行動者率は35.2%

図2-1 年齢階級別「学習・研究」の行動者率（平成13年、18年）



○ 「パソコンなどの情報処理」は行動者率が低下

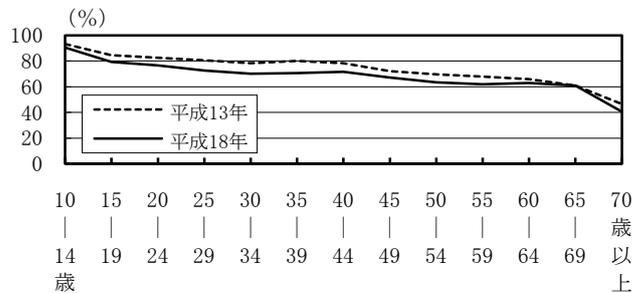
図2-2 「学習・研究」の種類別行動者率（平成13年、18年）



3 スポーツ

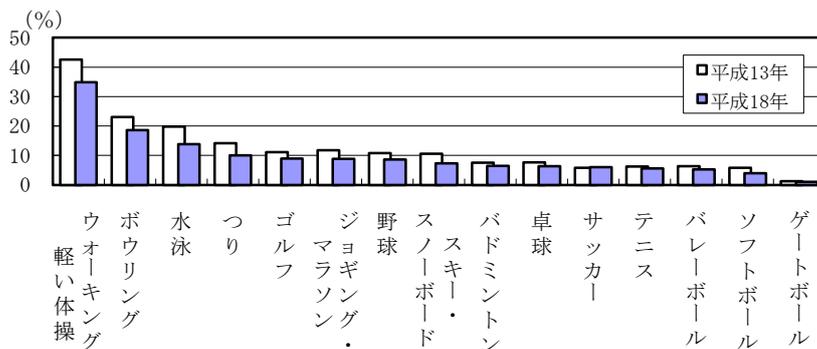
○ 「スポーツ」の行動者数は7423万6千人、行動者率は65.3%で5年前より6.9ポイント低下

図3-1 年齢階級別「スポーツ」の行動者率（平成13年、18年）



○ 行動者率は全体的に低下傾向

図3-2 「スポーツ」の種類別行動者率（平成13年、18年）



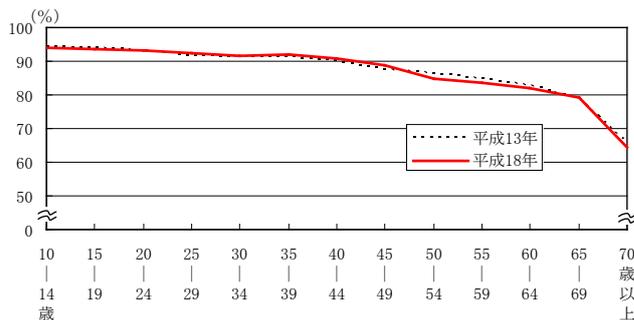
注:平成13年と比較可能な種類を表章。

「ウォーキング・軽い体操」の平成13年の調査項目名は「運動としての散歩・軽い体操」。

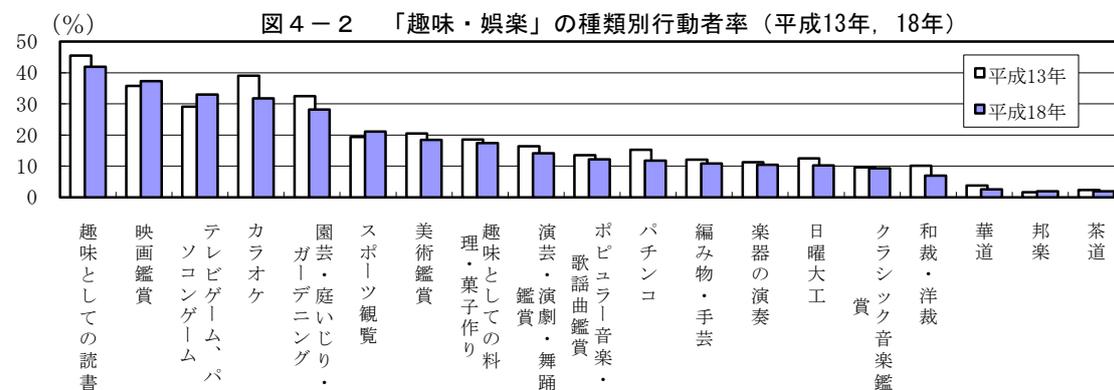
4 趣味・娯楽

○ 「趣味・娯楽」の行動者数は9646万4千人、行動者率は84.9%

図4-1 年齢階級別「趣味・娯楽」の行動者率（平成13年，18年）



○ 「テレビゲーム，パソコンゲーム」，「スポーツ観覧」，「映画鑑賞」などは行動者率が上昇



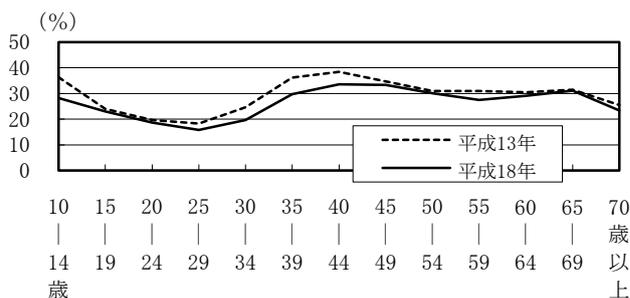
注：平成13年と比較可能な種類を表章。

「テレビゲーム，パソコンゲーム」の平成13年の調査項目名は「テレビゲーム」。

5 ボランティア活動

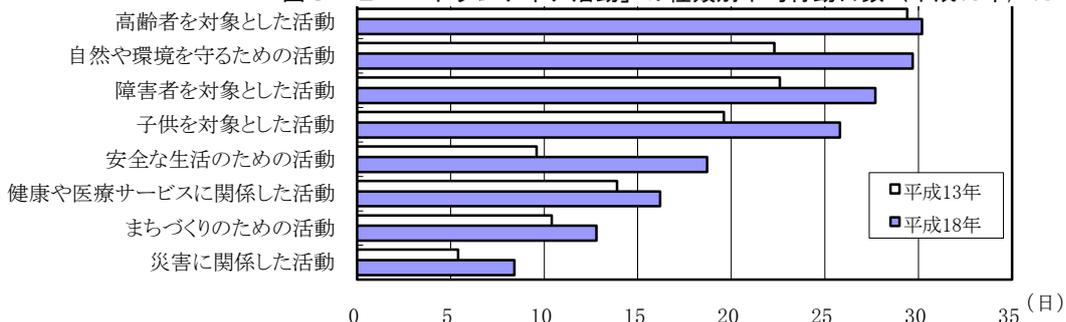
○ 「ボランティア活動」の行動者数は2972万2千人、行動者率は26.2%で5年前より2.7ポイント低下

図5-1 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率（平成13年，18年）



○ 平均行動日数はすべての種類で増加

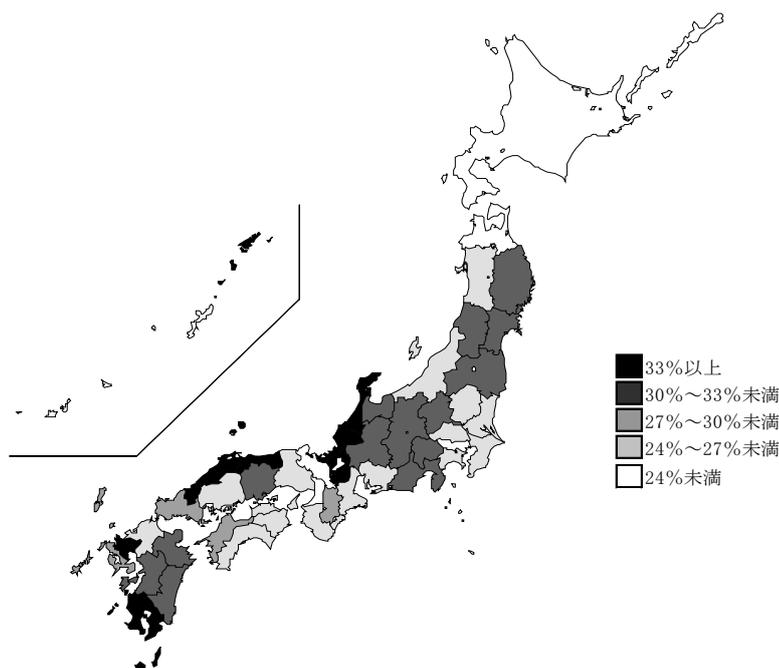
図5-2 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数（平成13年，18年）



注：平成13年と比較可能な種類を表章。

○ 行動者率は、鳥取県、滋賀県及び島根県が高い

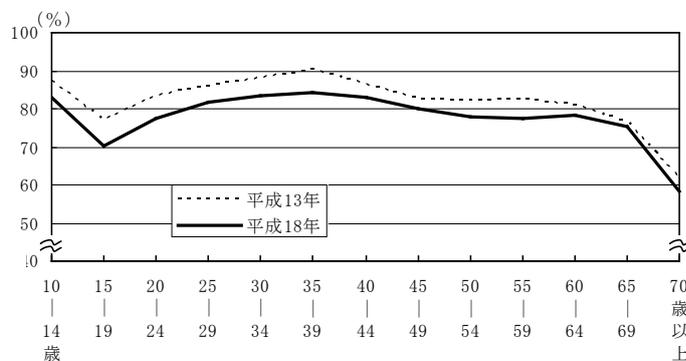
図5-3 都道府県別「ボランティア活動」の行動者率



6 旅行・行楽

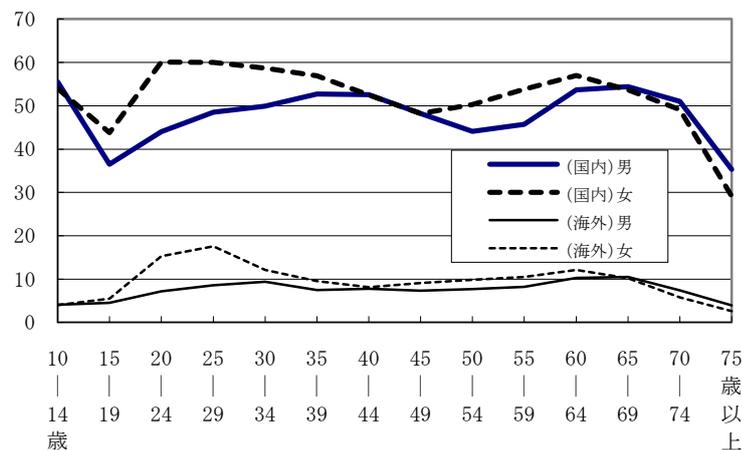
○ 「旅行・行楽」の行動者数は8660万7千人，行動者率は76.2%で5年前より4.7ポイント低下

図6-1 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率（平成13年，18年）



○ 「観光旅行（海外）」の行動者率は、男性は65～69歳，女性は25～29歳が最も高い

図6-2 男女，年齢階級別「観光旅行」の行動者率



平成19年9月28日

平成18年社会生活基本調査 生活時間に関する結果 要約

1 1日の生活時間

(1) 概観（「結果の概要」2～3頁参照）

○ 2次活動時間は増加，3次活動時間は減少

表1 男女，行動の種類別生活時間（平成13年，18年）一週全体

	平成13年			平成18年			増減		
	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動	1次活動	2次活動	3次活動
総数	10.36	6.56	6.28	10.37	7.00	6.23	0.01	0.04	-0.05
男	10.30	6.51	6.39	10.31	6.58	6.31	0.01	0.07	-0.08
女	10.42	7.01	6.17	10.42	7.03	6.15	0.00	0.02	-0.02

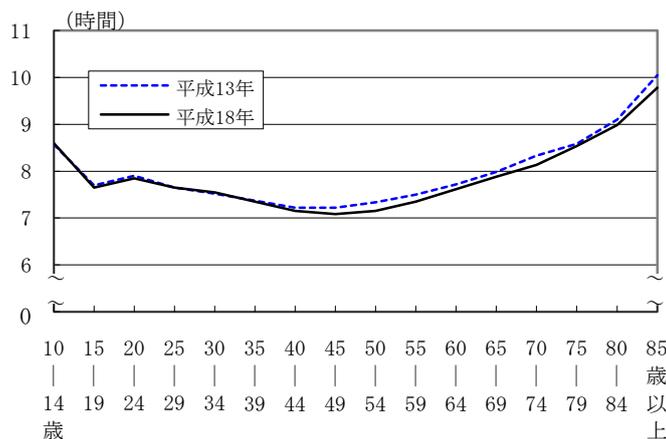
注) 1次活動・・・睡眠，食事など生理的に必要な活動
2次活動・・・仕事，家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
3次活動・・・1次活動，2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

(2) 睡眠（「結果の概要」7～8頁参照）

○ ほとんどの年齢階級で睡眠時間は減少

- ・睡眠時間は7時間42分で，平成13年と比べると3分の減少
- ・10～14歳，25～29歳及び30～34歳を除くすべての年齢階級で減少

図1 年齢階級別睡眠時間（平成13年，18年）一週全体



●社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は，国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し，国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし，昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。

調査の対象は，全国の世帯から無作為に選定した約8万世帯にふだん住んでいる10歳以上の世帯員である。

今回公表する結果は，生活時間の配分に関する結果である。なお，自由時間等における主な活動に関する結果は，7月9日に公表したところである。

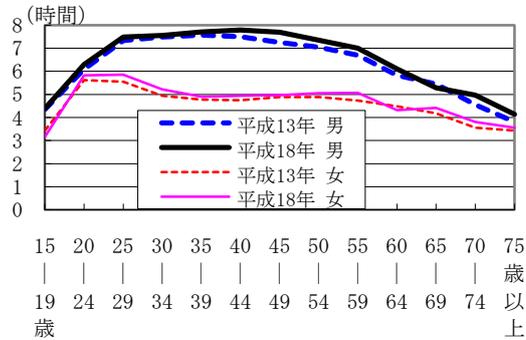
また，12月に，詳細な行動分類による生活時間の結果を公表する予定である。

(3) 仕事（「結果の概要」12～15頁参照）

○ 男女共にほとんどの年齢階級で仕事時間が増加

- ・有業者の仕事時間は男性が7時間、女性が5時間で、平成13年と比べると男性が12分、女性が9分の増加
- ・男性の65～69歳、女性の15～19歳及び60～64歳を除くすべての年齢階級で増加

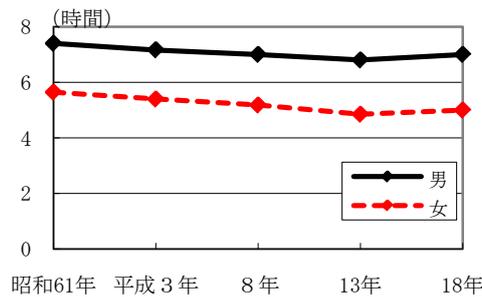
図2 男女、年齢階級別仕事時間（平成13年、18年）一週全体、有業者



○ 減少が続いていた仕事時間が平成18年は増加

- ・過去20年間の仕事時間の推移をみると、男女共に平成13年まで減少が続いていたが、18年は増加に転じる

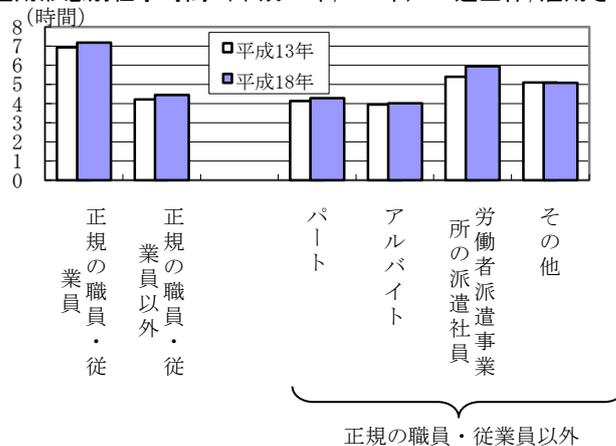
図3 男女別仕事時間の推移（昭和61年～平成18年）一週全体、有業者



○ 正規の職員・従業員、「正規の職員・従業員以外」共に仕事時間が増加

- ・仕事時間は正規の職員・従業員が7時間11分、「正規の職員・従業員以外」が4時間27分で、平成13年と比べると正規の職員・従業員は15分、「正規の職員・従業員以外」は13分の増加

図4 雇用形態別仕事時間（平成13年、18年）一週全体、雇用されている人

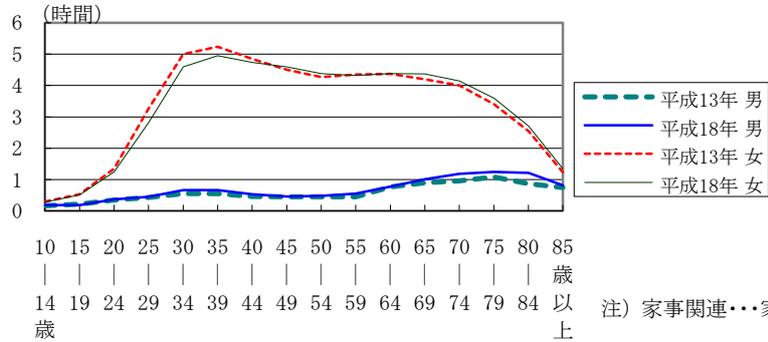


(4) 家事関連 (「結果の概要」16～17頁参照)

○ 男女の間に大きな差があるものの、男性はほとんどの年齢階級で家事関連時間が増加

- ・家事関連時間は男性が38分、女性が3時間35分で、男女の間に大きな差
- ・男性は15～19歳を除くすべての年齢階級で増加

図5 男女、年齢階級別家事関連時間(平成13年, 18年)一週全体



注) 家事関連・・・家事、介護・看護、育児及び買い物

(5) 自由時間活動 (「結果の概要」18～20頁参照)

○ ほとんどの年齢階級で休養等自由時間活動の時間は減少、積極的自由時間活動の時間は増加

- ・休養等自由時間活動の時間のうち、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌に費やす時間は2時間24分で、平成13年と比べると8分の大幅な減少

図6 年齢階級別休養等自由時間活動の時間(平成13年, 18年)一週全体

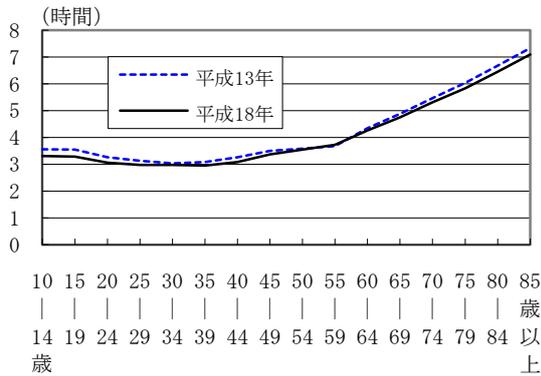
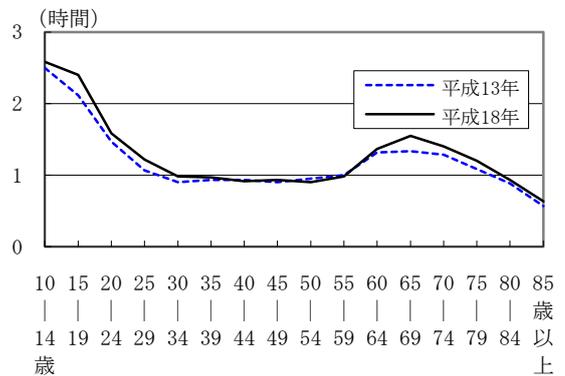


図7 年齢階級別積極的自由時間活動の時間(平成13年, 18年)一週全体



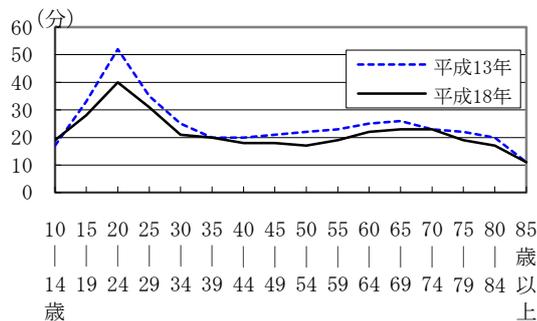
注) 休養等自由時間活動・・・テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

注) 積極的自由時間活動・・・学習・研究(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

○ 20～24歳で大きく減少した交際・付き合いの時間

- ・交際・付き合いの時間は22分で、平成13年と比べると4分の減少
- ・10～14歳を除くすべての年齢階級で減少又は横ばい、特に20～24歳は12分と大きく減少

図8 年齢階級別交際・付き合いの時間(平成13年, 18年)一週全体



2 各種属性別にみた生活時間

(1) 在学者（「結果の概要」21～22頁参照）

○ 学業時間は中学3年生が最も長い

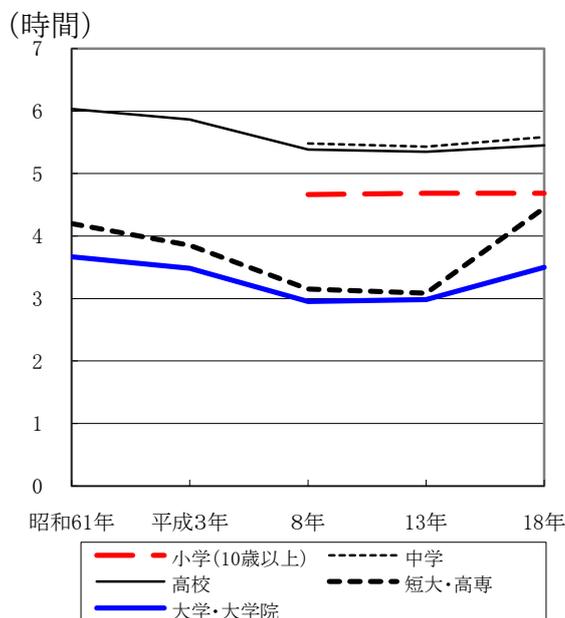
表2 男女，在学する学校の種類・学年別学業時間一週全体，在学者
(時間.分)

	総数	男	女
総数	4.54	4.52	4.56
小学(10歳以上)	4.41	4.38	4.45
うち5年生	4.38	4.32	4.44
うち6年生	4.44	4.40	4.47
中学	5.35	5.25	5.46
1年生	5.29	5.21	5.39
2年生	5.21	5.16	5.25
3年生	5.55	5.38	6.13
高校	5.27	5.34	5.21
1年生	5.20	5.28	5.14
2年生	5.21	5.14	5.30
3年生	5.53	6.05	5.39
短大・高専	4.27	4.39	4.20
大学・大学院	3.30	3.41	3.11

○ 学業時間は全体的に増加

・過去20年間の学業時間の推移をみると，全体的に減少傾向にあったが，平成18年は短大・高専及び大学・大学院が大きく増加，それ以外も増加又は横ばい

図9 在学する学校の種類別学業時間の推移（昭和61年～平成18年）一週全体，在学者



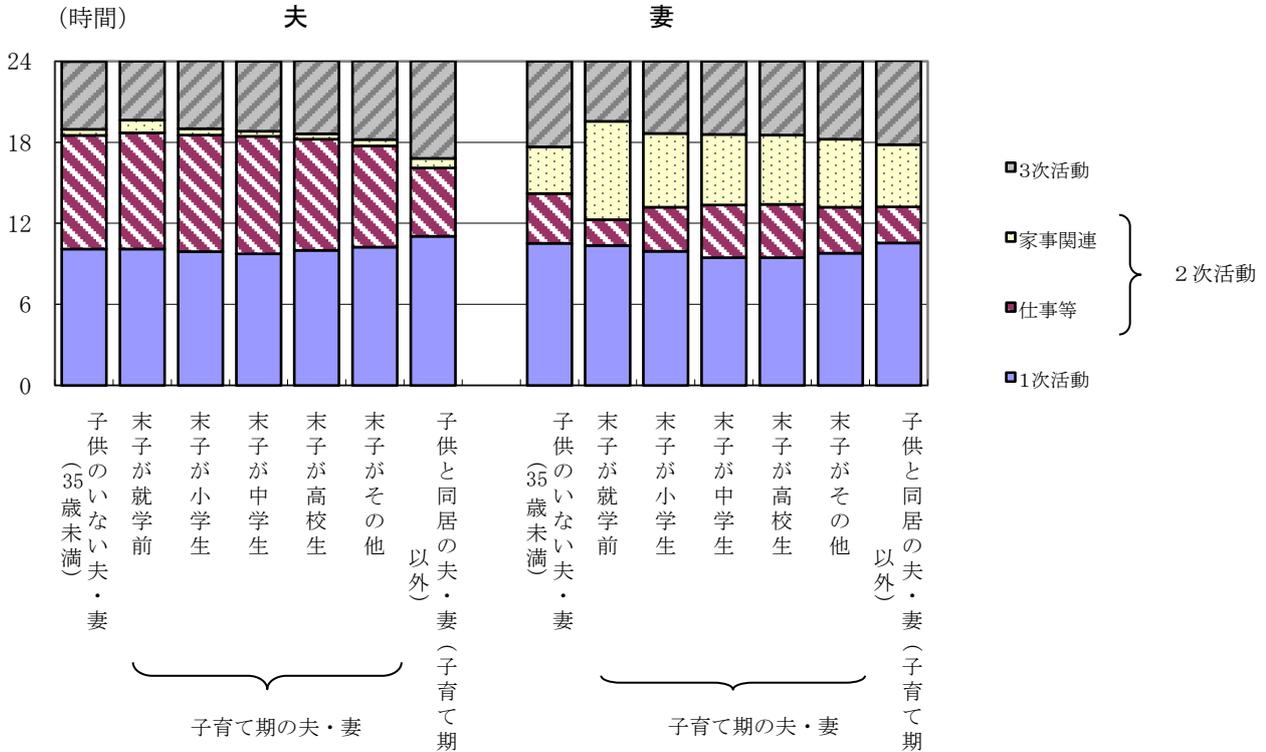
注) 小学生及び15歳未満の中学生は平成8年より調査。
昭和61年及び平成3年の高校には，15歳以上の中学生を含む。

(2) 夫と妻 (「結果の概要」23～26頁参照)

○ 子供の成長過程により、妻の家事関連時間と仕事等の時間は大きく変化

・妻の2次活動時間は、末子が上級の学校になるほど家事関連時間は短く、仕事等の時間は長くなり、子供の成長過程により家事関連時間と仕事等の時間に大きな変化が見られる。

図10 ライフステージ、行動の種類別生活時間一週全体、夫・妻



注) 仕事等・・・通勤・通学, 仕事及び学業

○ 共働き世帯の2次活動分担割合は妻が夫より高いが、低下が続く（夫婦と子供の世帯）

表3 共働きか否か別夫と妻の2次活動合計時間に占める妻の分担割合の推移（昭和61年～平成18年）
一週全体、夫婦と子供の世帯の妻

	共働き世帯					夫が有業で妻が無業の世帯				
	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年
2次活動	53.3	53.0	52.5	52.1	51.4	47.2	47.3	46.7	46.5	45.7
仕事等	39.3	38.2	37.4	36.6	36.1	1.4	0.6	0.6	0.8	0.4
家事関連	94.7	93.6	93.2	91.4	89.6	96.4	94.9	94.3	92.8	91.5

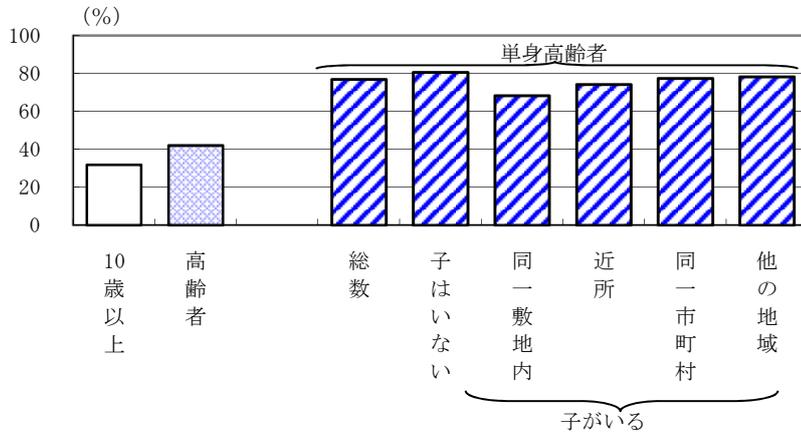
注) 分担割合 = 100 × (妻の時間) / (夫と妻の合計時間)

(3) 高齢者（65歳以上）（「結果の概要」27～30頁参照）

○ 1日の大半を一人で過ごす単身高齢者

・単身高齢者の生活時間（睡眠時間を除く。）を一緒にいた人別にみると、一人でいた時間が12時間2分で、睡眠を除く生活時間の76.8%を占める。

図11 睡眠を除く生活時間に占める一人でいた時間の割合－週全体



(4) ふだん家族を介護している人（介護者）（「結果の概要」31～32頁参照）

○ 介護者数及び介護・看護時間総量は増加，一人当たり介護・看護時間は減少が続く

・過去15年間の介護者数及び介護者の介護・看護時間の推移をみると、介護者数及び介護者の介護・看護時間総量は増加が続き、平成18年の介護者数は533万6千人。一方、一人当たり介護・看護時間は減少

図12 男女別介護者数の推移
（平成3年～18年）－15歳以上

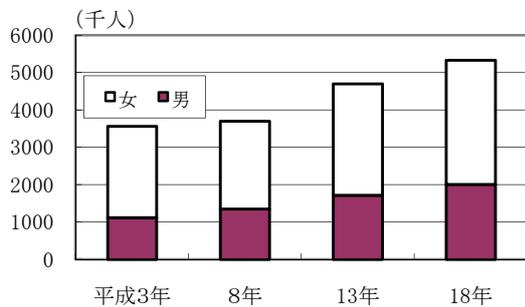
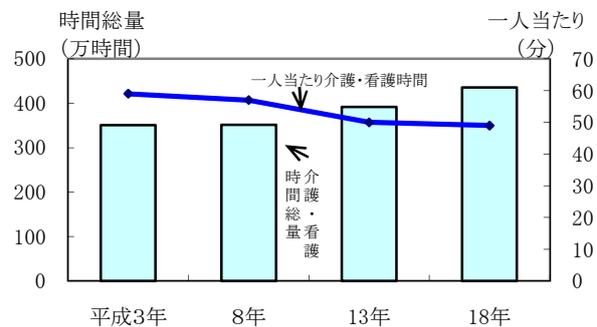


図13 介護者の介護・看護時間の推移
（平成3年～18年）－週全体，15歳以上



注) 介護・看護時間総量＝介護者数×介護・看護時間

3 主な行動の平均時刻（「結果の概要」36～46頁参照）

○ 平日の就寝時刻が最も早いのは青森県で、最も遅い東京都との差は1時間8分

表4 都道府県別平均起床時刻及び平均就寝時刻－平日

起床			就寝		
順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	順位	都道府県	平均時刻 (時:分)
	全国	6:39		全国	23:16
1	青森県	6:22	1	青森県	22:32
1	岩手県	6:22	2	岩手県	22:37
3	福島県	6:24	3	秋田県	22:42
3	新潟県	6:24	4	山形県	22:46
3	富山県	6:24	5	福島県	22:50
43	兵庫県	6:47	43	福岡県	23:30
44	大阪府	6:48	44	大阪府	23:31
45	沖縄県	6:50	45	神奈川県	23:32
46	京都府	6:51	46	京都府	23:37
47	東京都	6:52	47	東京都	23:40

表5 都道府県別平均出勤時刻及び仕事からの平均帰宅時刻－平日，有業者

出勤			仕事からの帰宅		
順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	順位	都道府県	平均時刻 (時:分)
	全国	8:28		全国	18:58
1	岐阜県	8:04	1	高知県	18:15
2	青森県	8:05	2	和歌山県	18:16
3	新潟県	8:09	3	宮崎県	18:22
4	和歌山県	8:13	4	新潟県	18:23
5	熊本県	8:15	5	熊本県	18:25
43	山口県	8:38	43	兵庫県	19:17
44	東京都	8:41	44	東京都	19:18
45	兵庫県	8:44	45	埼玉県	19:22
46	京都府	8:52	45	奈良県	19:22
47	沖縄県	8:58	47	神奈川県	19:28

平成19年12月21日

平成18年社会生活基本調査 詳細行動分類による生活時間に関する結果 要約

1 大分類にみた生活時間の配分

○ 「有償労働」時間は男性が2時間48分長く、「無償労働」時間は女性が3時間10分長い

(「結果の概要」2頁参照)

・平成13年と比べると、「有償労働」時間及び「自由時間」は増加、「無償労働」時間及び「学業、学習・研究」時間は減少。

・「有償労働」時間は男性が2時間48分長く、「無償労働」時間は女性が3時間10分長い。

表1 男女、行動の種類別総平均時間（平成13年、18年）一週全体

	総数			男			女			男女差
	平成13年	平成18年	増減	平成13年	平成18年	増減	平成13年	平成18年	増減	平成18年
有償労働	4.11	4.16	0.05	5.41	5.42	0.01	2.47	2.54	0.07	2.48
無償労働	2.53	2.46	-0.07	1.12	1.08	-0.04	4.29	4.18	-0.11	-3.10
学業、学習・研究	1.05	0.59	-0.06	1.10	1.04	-0.06	1.01	0.54	-0.07	0.10
個人的ケア	11.04	11.03	-0.01	11.00	10.57	-0.03	11.07	11.08	0.01	-0.11
自由時間	4.16	4.27	0.11	4.27	4.37	0.10	4.05	4.16	0.11	0.21
その他	0.31	0.30	-0.01	0.31	0.31	0.00	0.31	0.29	-0.02	0.02

注) 平成13年は「アンペイドワーク等に係る特別集計結果」

●社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。

平成18年調査は調査票A及び調査票Bを用いて実施し、今回公表する結果は、このうち、調査票B(アフターコード方式^{*1})での詳細行動分類による生活時間の配分に関する結果であり、全国の世帯から無作為に選定した約4千世帯にふだん住んでいる10歳以上の世帯員を対象としたものである。

なお、調査票Aでの自由時間等における主な活動に関する結果は7月9日に公表し、調査票Aでの生活時間の配分に関する結果(全20区分のプリコード方式^{*2})による行動分類)は9月28日に公表した。

*1) 調査票に記入者自身が個々の行動を日誌のように記入し、集計の段階で行動分類に対応させる方式

*2) 調査票にあらかじめ記載された行動分類を記入者自身が選択する方式

●詳細行動分類

平成18年調査の調査票Bに関する集計においては、行動の種類を大分類6、中分類22、小分類85種類に区分した。

大分類の種類及び内容は以下のとおり。中分類及び小分類については、「結果の概要」68頁参照。

有償労働……………収入を目的とする仕事。通勤を含む。

無償労働……………家事、育児、ボランティア活動など収入を目的としない仕事。

学業、学習・研究…学校で行う学業や自由時間に行う学業、学習・研究。通学を含む。

個人的ケア……………睡眠、入浴、食事など生理的に必要な活動、身体のケア及び食事に関する行動。

自由時間……………交際、趣味、スポーツ、テレビなど各人が自由に使える時間における行動。

その他……………上記以外の行動。

●用語

2 有償労働

○ 副業をした人の割合は土曜日が高い

(「結果の概要」4頁参照)

・有業者(15歳以上)のうち、調査日に「副業関連」¹⁾をした人の割合(行動者率)は土曜日が1.7%で最も高く、その時間(行動者平均時間)も3時間55分で最も長い。

表2 男女、曜日別「副業関連」の総平均時間、行動者平均時間及び行動者率(平成13年、18年)－有業者

		総数			男			女		
		総平均時間	行動者平均時間	行動者率	総平均時間	行動者平均時間	行動者率	総平均時間	行動者平均時間	行動者率
平成13年	平日	0.03	3.15	1.5	0.03	3.51	1.3	0.03	2.55	1.9
	土曜日	0.03	3.19	1.5	0.03	3.40	1.3	0.03	2.57	1.8
	日曜日	0.05	3.57	1.9	0.04	4.13	1.7	0.05	3.41	2.2
平成18年	平日	0.02	3.07	1.2	0.02	3.35	1.1	0.02	2.32	1.3
	土曜日	0.04	3.55	1.7	0.04	4.16	1.4	0.05	3.38	2.2
	日曜日	0.03	3.46	1.4	0.03	3.34	1.4	0.03	4.02	1.4
増減	平日	-0.01	-0.08	-0.3	-0.01	-0.16	-0.2	-0.01	-0.23	-0.6
	土曜日	0.01	0.36	0.2	0.01	0.36	0.1	0.02	0.41	0.4
	日曜日	-0.02	-0.11	-0.5	-0.01	-0.39	-0.3	-0.02	0.21	-0.8

注) 平成13年は「アンペイドワーク等に係る特別集計結果」

3 無償労働

○ 女性は炊事などの「食事の管理」の時間が「家事」時間の約半分を占める

(「結果の概要」5頁参照)

・「家事」に費やす時間が最も長いのは、男性が炊事などの「食事の管理」、 「園芸」及び掃除などの「住まいの手入れ・整理」で、女性が「食事の管理」。

・女性は「食事の管理」の時間が「家事」時間全体の約半分を占める。

表3 男女、行動の種類(家事)別総平均時間、行動者平均時間及び行動者率－週全体

	総数			男			女		
	総平均時間	行動者平均時間	行動者率	総平均時間	行動者平均時間	行動者率	総平均時間	行動者平均時間	行動者率
家事	1.50	3.08	58.8	0.34	1.43	33.1	3.02	3.39	83.2
食事の管理	0.52	1.51	46.8	0.09	0.58	15.8	1.32	2.01	76.2
菓子作り	0.00	1.03	0.2	0.00	0.44	0.0	0.00	1.06	0.3
園芸	0.10	1.45	9.3	0.09	2.02	7.5	0.10	1.34	11.1
住まいの手入れ・整理	0.25	1.08	37.1	0.09	0.56	16.7	0.40	1.11	56.4
衣類等の手入れ	0.17	0.55	30.5	0.02	0.40	6.0	0.31	0.57	53.9
衣類等の作製	0.01	2.01	0.9	0.00	0.50	0.0	0.02	2.03	1.7
建築・修繕	0.01	1.54	0.5	0.01	1.43	0.8	0.00	1.57	0.3
乗り物の手入れ	0.00	1.01	0.7	0.01	1.02	1.2	0.00	0.55	0.2
世帯管理	0.01	1.04	2.2	0.01	1.13	1.4	0.02	1.00	2.9
乳幼児以外の家族の介護・看護	0.02	1.50	1.9	0.01	1.38	1.1	0.03	1.54	2.6
家族の身の回りの世話	0.01	0.32	2.7	0.00	0.33	0.3	0.02	0.32	4.9
その他の家事	0.00	1.04	0.1	0.00	1.37	0.1	0.00	0.32	0.1

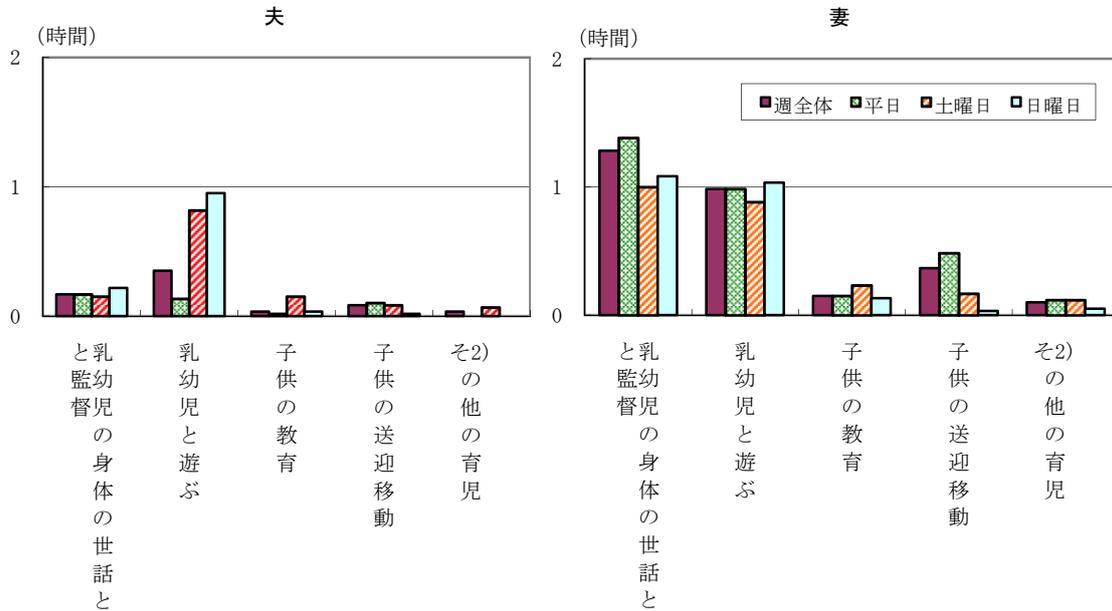
1) 「副業」及び「副業中の移動」をいう。

○ 6歳未満の子供がいる父親は「育児」時間のうち「乳幼児と遊ぶ」時間が最も長い

(「結果の概要」6頁参照)

- ・夫婦と子供の世帯(末子が6歳未満)の夫(父)と妻(母)の「育児」時間は、夫が39分、妻が2時間54分。
- ・「育児」に費やす時間が最も長いのは、夫(父)が「乳幼児と遊ぶ」、妻(母)が「乳幼児の身体の世話と監督」。

図1 曜日、行動の種類(育児)別総平均時間—夫婦と子供の世帯(末子が6歳未満)の夫・妻



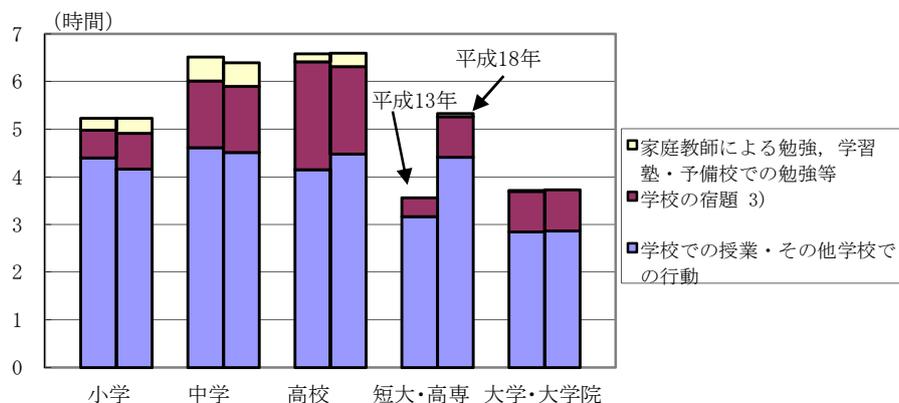
4 学業, 学習・研究

○ 「学校での授業・その他学校での行動」の時間は小学生及び中学生は減少

(「結果の概要」7頁参照)

- ・平成13年と比べると、在学者(10歳以上)の「学校での授業・その他学校での行動」の時間は、高校生、短大・高専生などは増加、小学生及び中学生は減少。

図2 在学する学校の種類、行動の種類(「学校での学習(学業)中の休憩」, 「通学」を除く「学業」)別総平均時間(平成13年, 18年)—週全体, 在学者



2) 「乳幼児の介護・看護」及び「子供の付き添い等」を合わせたもの。
 3) 予習・復習を含む。

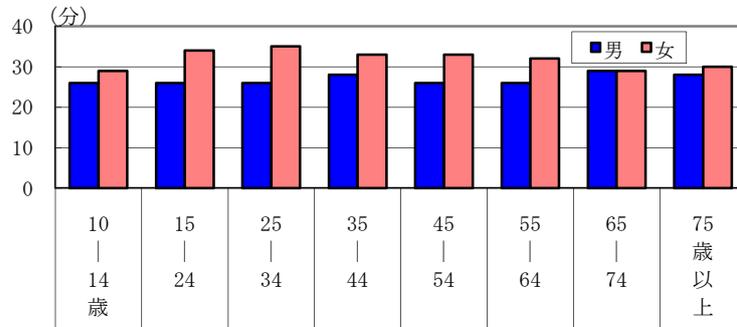
5 個人的ケア

○ 「入浴」時間は女性が男性より5分長い

(「結果の概要」9頁参照)

- ・「入浴」時間は男性が27分、女性が32分。
- ・「入浴」時間が最も長い年齢階級は、男性が65～74歳、女性が25～34歳。

図3 男女、年齢階級別「入浴」の総平均時間一週全体

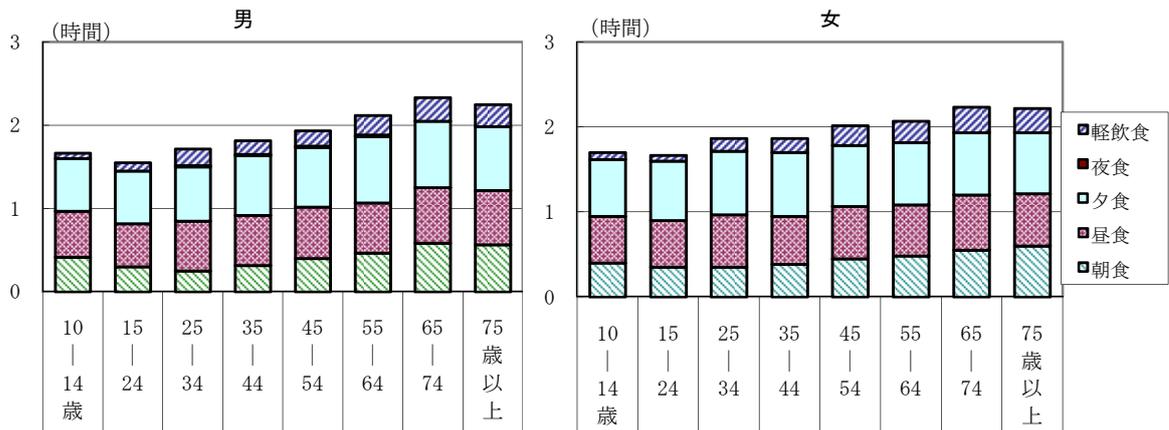


○ 「食事」にかける時間は「朝食」が25分、「昼食」が36分、「夕食」が43分

(「結果の概要」10頁参照)

- ・「食事」時間は1時間57分で、そのうち「朝食」が25分、「昼食」が36分、「夕食」が43分。
- ・「食事」時間は男女共に年齢階級が高くなるほど長くなる傾向。

図4 男女、年齢階級、行動の種類(食事)別総平均時間一週全体



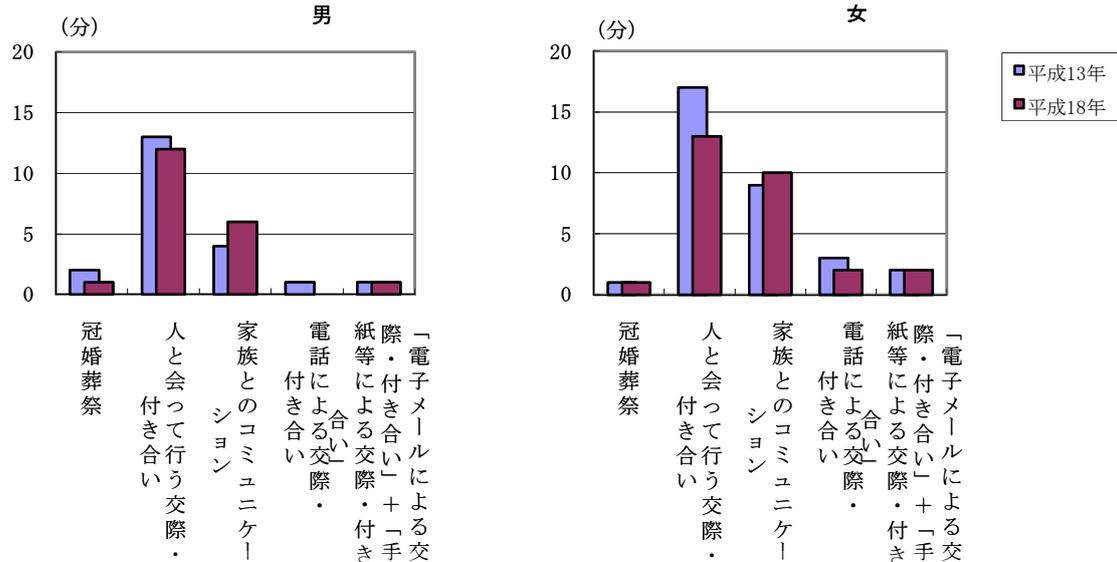
6 自由時間

○ 男女共に「人と会って行う交際・付き合い」の時間は減少、「家族とのコミュニケーション」の時間は増加

(「結果の概要」12頁参照)

- ・「人と会って行う交際・付き合い」の時間は男性が12分、女性が13分で、「家族とのコミュニケーション」の時間は男性が6分、女性が10分。
- ・平成13年と比べると、男女共に「人と会って行う交際・付き合い」の時間は減少、「家族とのコミュニケーション」の時間は増加。

図5 男女、行動の種類(交際)別総平均時間(平成13年, 18年)一週全体



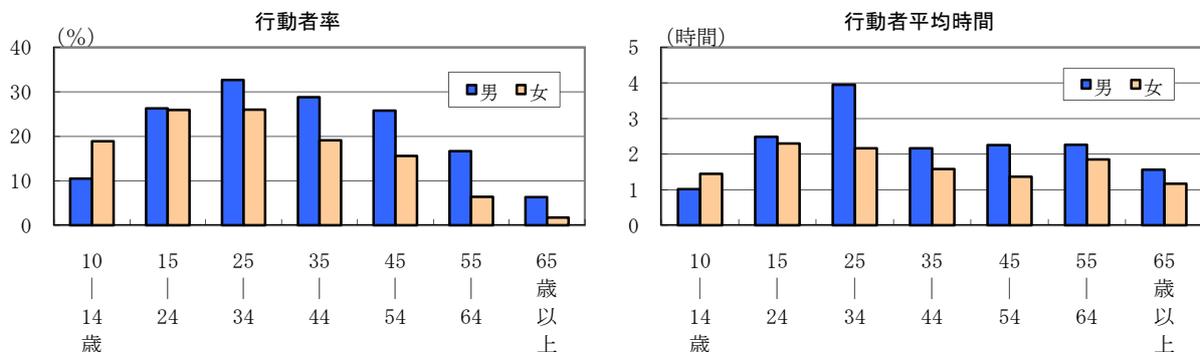
7 インターネットの利用

○ 男性は25～34歳、女性は15～24歳で最も長いインターネットの利用時間

(「結果の概要」14頁参照)

- ・10歳以上の人がインターネットを利用した時間(総平均時間)は25分。
- ・インターネットの利用の行動者率が最も高い年齢階級は、男女共に25～34歳。
- ・インターネットの利用の行動者平均時間が最も長い年齢階級は、男性が25～34歳、女性が15～24歳。

図6 男女、年齢階級別インターネットの利用の行動者率及び行動者平均時間一週全体



8 行動の場所

○ 自宅にいた時間が最も短いのは男性が25～34歳，女性が15～24歳

(「結果の概要」16頁参照)

- ・10歳以上の人が自宅にいた時間は16時間9分で，男性は14時間46分，女性は17時間27分。
- ・自宅にいた時間が最も短い年齢階級は，男性が25～34歳，女性が15～24歳。

表4 男女，年齢階級別自宅にいた総平均時間一週全体

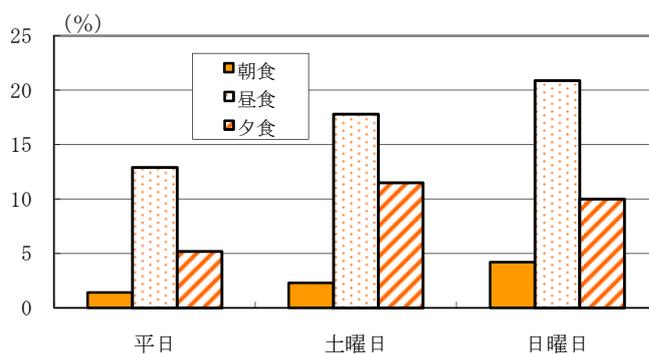
	(時間.分)			
	総数	男	女	男女差
総数	16.09	14.46	17.27	-2.41
10～14歳	14.56	14.33	15.21	-0.48
15～24歳	14.26	14.31	14.21	0.10
25～34歳	14.12	12.38	15.47	-3.09
35～44歳	14.40	12.39	16.43	-4.04
45～54歳	15.20	13.19	17.21	-4.02
55～64歳	16.45	15.20	18.05	-2.45
65～74歳	19.11	18.11	20.03	-1.52
75歳以上	20.42	20.19	20.57	-0.38

○ 自宅などを除く「その他」の場所で食事をした人の割合は，「昼食」は日曜日が高く，「夕食」は土曜日が高い

(「結果の概要」18頁参照)

- ・自宅などを除く「その他」⁴⁾の場所で食事をした人の割合(行動者率)は，「昼食」は日曜日が最も高く，「夕食」は土曜日が最も高い。

図7 行動の種類(夜食，軽飲食を除く食事)，曜日別「その他」の場所にいた行動者率



4) 自宅，学校・職場及び移動中以外の場所をいう。

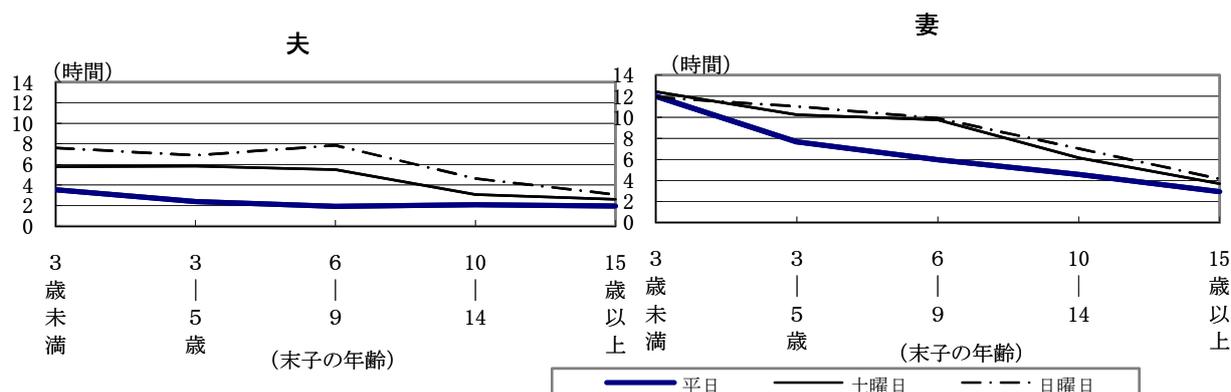
9 一緒にいた人

○ 平日に子供と一緒にいた時間は父親が2時間16分、母親が5時間38分

(「結果の概要」19頁参照)

- ・子供のいる世帯の夫(父)と妻(母)⁵⁾について、平日に子供と一緒にいた時間(睡眠、うたたね中を除く。)は、夫が2時間16分、妻が5時間38分。
- ・夫も妻も末子の年齢階級が高くなるほど子供と一緒にいる時間が短くなる傾向。

図8 曜日、末子の年齢階級別子供と一緒にいた総平均時間—子供のいる世帯の夫・妻



○ 平日の「夕食」時間に父親と一緒にいた子供(10~14歳)は41.1%

(「結果の概要」20頁参照)

- ・「夕食」時間に父と一緒にいた子供(10~14歳)は、平日が41.1%、土曜日が47.1%、日曜日が62.0%。

表5 行動の種類(夜食、軽飲食を除く食事)、曜日別父母と一緒にいた行動者率—10~14歳

	平日		土曜日		日曜日	
	父	母	父	母	父	母
食事	56.2	91.8	62.6	90.4	72.3	91.3
朝食	32.8	76.6	33.8	61.2	33.1	60.1
昼食	0.3	2.5	26.0	51.1	31.9	52.0
夕食	41.1	82.5	47.1	71.2	62.0	80.8

注) 「一緒にいた人」は複数回答及び不詳あり。

5) 「夫婦と子供の世帯」、「夫婦、子供と両親の世帯」及び「夫婦、子供とひとり親の世帯」の夫・妻。

10 同時行動

○ 「テレビ」を見ながら「夕食」をとった人の割合は21.4%

(「結果の概要」21頁参照)

- ・同時行動⁶⁾を伴った割合(行動者率)の高い主行動を小分類別にみると、「夕食」が24.5%と最も高く、次いで「朝食」が21.5%、「食事の管理」が15.5%などとなっている。
- ・同時行動を種類別にみると、主行動が「夕食」で同時行動が「テレビ」を見ていた人の割合(行動者率)は21.4%で最も高い。

表6 行動の種類, 同時行動を伴うか否か別総平均時間及び行動者率—週全体

主行動	総平均時間(時間.分)		行動者率(%)			
	総数	同時行動を伴う時間	総数	同時行動を伴う行動者率	同時行動の種類 (括弧内は行動者率)	
					1位	2位
有償労働	4.16	0.06	46.5	6.1		
無償労働	2.46	0.13	67.0	22.2		
食事の管理	0.52	0.07	46.8	15.5	テレビ (9.2)	衣類等の手入れ (3.4)
学業, 学習・研究	0.59	0.01	14.0	1.8		
個人的ケア	11.03	0.24	100.0	43.4		
身の回りの用事(自分自身や家族等が行うもの)	0.33	0.03	83.6	10.8	テレビ (6.5)	衣類等の手入れ (1.2)
朝食	0.25	0.05	82.4	21.5	テレビ (16.6)	新聞・雑誌 (2.3)
昼食	0.36	0.04	87.5	13.7	テレビ (10.9)	新聞・雑誌 (0.7)
夕食	0.43	0.09	93.3	24.5	テレビ (21.4)	家族とのコミュニケーション (1.3)
自由時間	4.27	0.16	94.3	25.4		
テレビ	2.17	0.08	80.5	14.2	新聞・雑誌 (4.0)	軽飲食 (2.1)
その他	0.30	0.01	38.6	3.4		

注) 行動の種類について, 大分類及び小分類を掲載。ただし小分類は同時行動を伴う行動者率が10%以上の行動を掲載。

6) 主にしていた行動(主行動)の他に, 同時にしていた行動をいう。